受入団体名：京都府立堂本印象美術館

プロジェクト名：堂本印象美術館活用方法発掘プロジェクト

募集人数

10名

＜活動期間：2025年10月1日～2026年1月10日　活動日数：15日以上＞

＜活動パターン＞

■週1日：原則火曜日5限の予定。
授業予定や企画の進捗によっては追加で活動。
授業時間外ではWEB上で随時やり取りをします。

＜活動の流れ＞

日時	活動内容
10/7(火)	顔合わせ・美術館紹介・活動内容・スケジュール確認
10/8(水)	展覧会の内覧会に招待（13時30分～15時）
10月中	美術館の活用方法の検討から実施計画の確定まで
11月中	新しい活用企画の実行と活用事例のコンテンツ化
12月中	活用事例コンテンツの公開と広報の実施
＜参考＞ 10/9～12/21	堂本一族の肖像展 開催期間

＜主な活動場所＞
堂本印象美術館・立命館大学

＜キャンパスからの交通手段＞
徒歩

＜活動に必要な費用＞
なし

＜参加の姿勢＞
何が必要か考える「知恵」と
ためらわず行動する「勇気」を持ち、
企画の完遂に向けてチームに
参加することを期待しています

＜コミュニケーションの手段＞
■電話　■その他（Slackなど）

＜活動のテーマと主な内容＞

美術館の新しい活用方法を考え、実践し、形に残そう

堂本印象美術館は、日本画家の堂本印象が創設した美術館です。
美術館と言えば「ただ美術品を見る場所」というイメージを持たれがちですが、実はそれ以外の楽しみ方もあるのではないか、新しい楽しみ方が広まれば、今まで美術館に来る機会のなかった人も足を運んでくれるのではないかと考えています。
そこで今年の活動は、美術館の新しい活用方法を考え、それを皆さんの手で実施し、「堂本美術館にはこんな活用方法もあります！」という事例を残すことに挑戦してもらいます。

今回のプロジェクトのミッションは下記の2つです。

① 堂本印象美術館の活用方法を考え、実際に取り組んでみること
② その取り組みを形に残し、美術館の新しい活用方法を広めること

＜活動する現場で学生が求められる背景（理由）＞

堂本印象美術館は立地こそ立命館大学衣笠キャンパスの向かいにありますが、来館者の内訳を見ると10代、20代の方の来館は全体の1割程度しかありません。また他の授業や大学に参加しても、あるいは立命館大学のOBの方と話をしても「外から見たことはあるけれど入ったことがない」という方がたくさんいる状況です。
一方で堂本印象美術館は、建物や内装も堂本印象の作品の一つです。美術館の中で作品を見るだけでなく、広場で休憩する人や、庭園で遊ぶ子どもたちも見かけます。つまり美術館を「使う」ことも芸術体験の一つなのかもしれません。
そこで美術館に少しでも興味を持ってもらえるように、美術館の新しい活用方法を考え、実践し、外に発信するために学生の皆さんの知識と経験と感性を借りたいと思い、今回の活動を企画しました。

＜学生が期待できる学び＞

本プロジェクトの具体的な活動は【美術館の活用方法の考案と実施】と【活用事例のコンテンツ化と広報】です。
企業や組織の活動にあてはめると、「広報」や「宣伝企画」や「プロモーション」にあたります。またそれを実施するためのチームとしての活動は、いわゆるプロジェクトマネジメントです。どちらのスキルも現代の社会生活を送るうえでは不可欠な要素です。またプロジェクトリーダーは輪番制としますので、全員が進行管理やメンバーへの指揮命令を経験することになります。
活動を終えたみなさんは、プロモーションとプロジェクトマネジメントの実務を経験して、物事の魅力や価値を見出す企画力、それを形に変える設計力、チームを動かし企画とプロジェクトをゴールに導く実行力を習得できると考えています。

＜活動紹介＞

これまでの活動現場での取り組みなど、プロジェクトや団体プログラムについて理解が
深まる情報を、写真や注釈などを含めて、ご記入ください。
この部分にお示しいただいた内容を、そのまま受講ガイドに掲載いたします。
別途作成される際はMicrosoft PowerPointのファイルを送信願います。
印刷は白黒でいたしますが、ウェブでのPDF配布版はカラーで提供します。

＜活動紹介＞

堂本印象と美術館のこれまで1/4

≪美術館外観≫

≪美術館ロビー≫

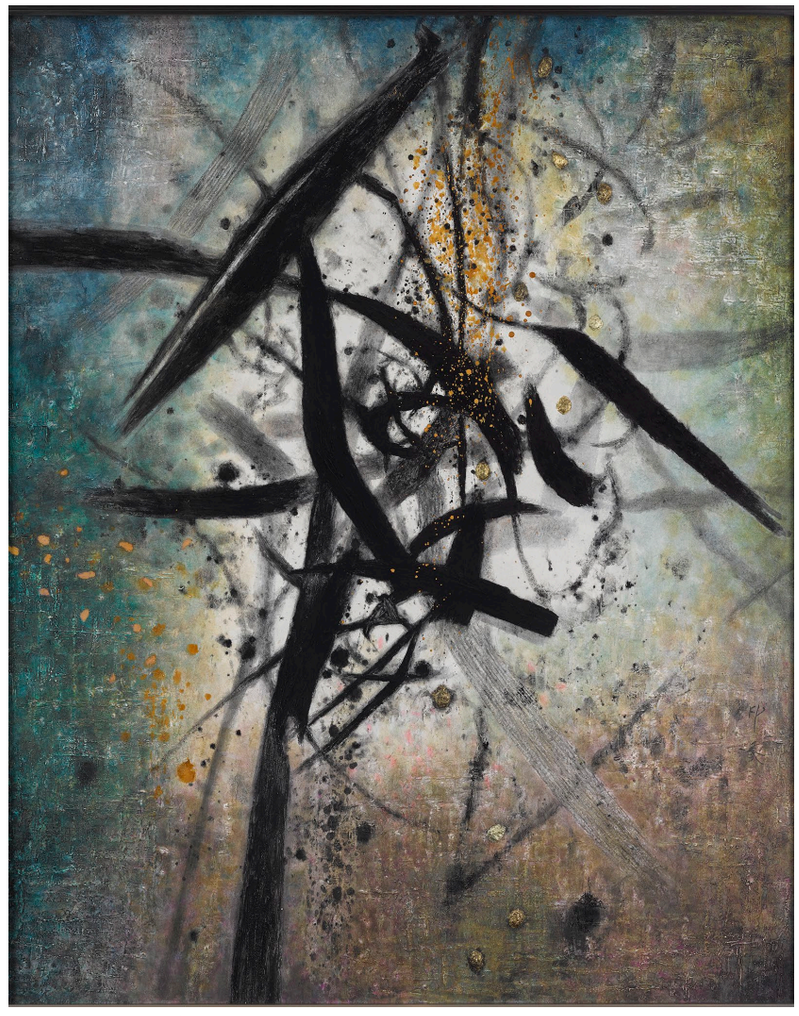
＜活動紹介＞

堂本印象と美術館のこれまで2/4

《深草》1919年(28歳)

《木華開耶媛》1929年(38歳)

《疑惑》1954年(63歳)



《交響》1961年（70歳）

＜活動紹介＞

堂本印象と美術館のこれまで3/4

1891年	京都市上京区に生まれる
1910年|19歳	京都市立美術工芸学校卒業
	西陣織の図案家になる
1918年|27歳	京都市立絵画専門学校入学
1919年|28歳	第1回帝展に初入選
1952年|61歳	初めてのヨーロッパ
1961年|70歳	文化勲章受章
1966年|75歳	堂本美術館開館
1975年|83歳	逝去

＜活動紹介＞

堂本印象と美術館のこれまで4/4

1966年「堂本美術館」として開館
〇堂本印象が設立した美術館
〇建物からドアノブまですべてが
　堂本印象のデザイン
〇渡欧の際に目にした宮殿や
　芸術家個人の美術館を参考

≪開館当時の美術館≫1966年

1992年「京都府立堂本印象美術館」へ
〇作品、美術館、財産が京都府へ寄贈

2025年　開館してから59年が経過
〇公益財団法人京都文化財団が指定管理者
〇国の登録有形文化財へ登録決定

＜活動紹介＞

立命館と美術館との連携1/6

観光案内マップの制作と配布(20か所1000部)

＜活動紹介＞

立命館と美術館との連携2/6

学生企画（衣笠フェスティバル）の作品展示

＜活動紹介＞

立命館と美術館との連携3/6

美術館紹介動画
日・英・中３か国語対応

堂本印象紹介動画
落語研究会協力

＜活動紹介＞

立命館と美術館との連携4/6

美術館前のバス停への広告掲出

＜活動紹介＞

立命館と美術館との連携5/6

美術館・堂本印象作品をモチーフにした衣装製作
美術館を舞台にした動画制作

＜活動紹介＞

立命館と美術館との連携6/6

SNS用記事の制作

＜活動紹介＞

シチズンシップ・スタディーズのこれまで

年度	企画概要	成果・実施事項
2024年度	観光案内マップの 制作と配布	マップの制作と配布先の選定、設置交渉を行い、 衣笠地域20カ所の店舗、寺社など 20カ所に1000枚のマップを設置。
2023年度	プレゼント付 展覧会チラシの配布	展覧会チラシを学内で300部配布。
2022年度	SNS記事の制作と配信	Instagram・X用の記事(動画・ポスター等)を 約20本制作、約7000のインプレッションを獲得。